みわを元気に

三和地域協議会ニュース　第３１号　令和２年５月20日発行

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

三和地域の人口・世帯数
男　1,559人
女　1,639人
合　計　3,198人
世帯数　1,662世帯
（令和2年4月末 現在）

第７回総会は全ての議案が可決
―文書総会にて開催―

前回の広報紙にてお伝えしたとおり、三和地域協議会の第７回総会は文書総会にて開催しました。代議員の皆様に議案書を送付し、表決書を返送いただく形で実施したところ、定数67のうち61票のご回答をいただきました。

結果は左表のとおりで、賛成多数で全ての議案が可決されました。平成31年度の事業報告・決算、および令和２年度の事業計画・予算案・役員体制案が承認されました。また代議員の方からは、激励のお言葉やご提言もいただきました。いただいたご意見を受け止め、新年度の活動をすすめていきます。

今年度も、三和地域協議会の活動への積極的なご参加、ご支援をよろしくお願いします。
（事業計画は裏面に掲載しています）

第７回三和地域協議会総会　表決結果
定数　67　投票総数　61

議案	賛成	保留	反対	結果
第１号議案（平成31年度事業報告）	61	0	0	可決
第２号議案（平成31年度決算・監査報告）	60	1	0	可決
第３号議案（令和２年度事業計画）	61	0	0	可決
第４号議案（令和２年度予算案）	61	0	0	可決
第５号議案（令和２年度役員案）	61	0	0	可決

みわこどもまつり・みわ夏まつり中止

三和地域協議会が主催しているこどもイベント「みわこどもまつり」は５月31日に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、収束の目途が立たないことから、中止となりました。

また、毎年８月14日に開催し、三和の夏の風物詩となっている「みわ夏まつり」も、今年は中止することが幹事会で決定されました。

フェスティバルは今後検討

秋の一大イベントである「三和ふれあいフェスティバル」については、今後幹事会を開いて開催是非を判断する予定です。

歯医者さんに聞いてみました！①

昨年11月から千束に眞鍋歯科医院を開業された歯科医師の眞鍋憲さん。講演会やラジオでお話していただく予定が新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期になってしまいましたので、先に、この紙面で色々なことを聞いてみたいと思います！

Q：三和町で歯科をしようと思われたのはなぜですか？

A：三和町の皆様、改めて初めまして。この度、野田歯科医院の後を引き継ぐ形で昨年の11月より歯科医院を開業いたしました、眞鍋 憲と申します。

高校を卒業するまで、パナソニックの本社がある大阪府守口市のこてこての下町で過ごしました。歯科医師になり神戸大学医学部口腔外科講座に入局、初期研修修終了後、大学より出向した鳥取県の医療法人で昨年９月に退職するまで長年勤務しておりました。

三和町の歯科診療所のことは、丹後に友人がいる関係で知りました。また、福知山をたびたび訪れることがあり全く知らない土地というわけではありませんでした。そして、自然豊かな環境で開業したいとの思いも強く、私にとって理想的な場所だったので、三和町で開業することにしました。

Q：現在の三和町の印象はいかがですか？

A：三和町は自然豊かで緑が多く夜も静かで夜空も空気も水も綺麗でとても気に入っています。

春になると「ホーホケキョ」とウグイスの鳴き声が辺りでこだまします。柔らかな春の日差しを浴びて診療の合間にコーヒーを飲みながら和ませてもらっています。

休日に、細野峠の歴史の道や、県道「709号線（三和～春日）」の散歩を楽しんだのですが、あとから、近所の人に「あそこは熊がでるから、もう行ったらあかんよ」って言われ、もし熊に会ったら目をそらさずに、ゆっくり後ろに下がりながら逃げるように教えて頂きました。あと、イノシシもサルも人間に向かってくるそうで(−_−;)…

そんなこんなで、三和町を満喫しています。

三和町の人は皆さん親切で、開業準備の時からいろいろお手伝い頂いたり、気さくに話しかけて頂いたりでスムーズに町に溶け込むことができたように思います。診療所に来られる患者さん同士も、知り合いの方が多く、久しぶりに会ったのか“あれっ”って言って声を掛け合い、待合で話に花を咲かせたりと、三和町全体が1つの家族みたいな感じです。

丁寧に答えてくださった眞鍋さん

Q：趣味・特技はありますか？

A：小さい頃から歴史が好きで、奈良や京都の神社・仏閣を訪れたりしていました。

現在は、日本史のなぞと言われる、邪馬台国にとても興味があります。中国の歴史書である魏志倭人伝では、邪馬台国の女王である卑弥呼が魏の国へ使者を遣わしたと紹介されているのですが、日本の歴史書で邪馬台国やその女王卑弥呼の名前がどこにも出てこないのです。大国であったにもかかわらずその場所がいまだに特定できないのはとても不思議です。

そのカギを握るのが、丹波だと考えています。丹波は、朝鮮の歴史書である“三国史”の“新羅本記”で多婆那国として紹介されていて、そこで生まれた倭人（日本人）である“脱解”（だっかい）が、朝鮮半島に渡り、新羅の４代目の王“脱解尼師今”（だっかいにしきん）になったと書かれています。また、これに呼応するかのように、海人族の海部氏が、代々神官を務める宮津の籠（この）神社に、倭人が朝鮮半島に渡って王になったとの伝説があり、多婆那国の場所も諸説あるのですが、丹波のことだと確信しています。そして、その三国史に、女王卑弥呼の名も登場するのです。

この丹波にも強大な国家が存在したと考えると、邪馬台国に関する何か面白い発見がありそうでとてもワクワクしています。新型コロナウイルスが落ち着いたら体力作りもかねて歩きながらじっくりと史跡巡りをしてみたいです。

今回は、眞鍋さんご自身のことをお伺いしました。次号ではお仕事のことなどをお聞きします。お楽しみに！

令和２年度事業計画(抜粋)

全体事業

福知山公立大学との連携をさらに生かす取り組み、地域福祉政策にどう関わっていくのか、工場立地やスーパー立地などを地域振興にどう結びつけていくのか、若者の様々な分野での活動支援などの課題に、地域の諸団体、諸活動と共同することを重点に取り組みます。

さらに、地域の定着した行事となった「みわこどもまつり」のほか、地域全体で取り組む「三和ふれあいフェスティバル」「みわ夏まつり」等の地域振興イベントについては、住民活動のよりどころとなる行事のこれからのあり方を考えながら、実施していきたいと思います。

部会活動としては、「交流・連携部会」の活動を構築し、引き続き大きな課題である定住促進の事業についても、常任委員会・事務局を中心に各自治会や住民の皆さんと協力し、市と連携して進めます。

三和地域公共交通空白地有償運送事業（みわ ひまわり ライド）

運行４年目を迎える「みわ ひまわり ライド」は、三和地域住民の生活基盤を支える移動交通手段として重要な役割を担っており、全戸配布チラシをはじめとする各種のＰＲ広報により認知されてきていますが特に高齢者世帯への周知に課題を残しており、継続したＰＲが必要です。

今後は、新規の会員登録者や利用者数、便数が大きく増加しないと予測され、現状の運行体制での安定した運行が求められるため、「敬老乗車券」の適用など便利で利用しやすい環境整備や市のモデル実証事業の検証により制度化される補助支援の内容などについて市への要望を継続していきます。

また、現在の登録運転手１９人のうち約半数の９人が７０歳を超えており、令和４年９月の運送事業登録更新時期を見通し、年次計画的な運転手の配置を行っていきます。

福知山公立大学連携事業

福知山公立大学がすすめる「地域密着型授業」として、中尾教授・亀井教授クラスの１回生１０数人が、１年間三和をフィールドに学習します。

昨年までのテーマをベースに新たな分野も加え、現地見学を行い、関係者が講師として講義と討論をする形式で取り組みます。

１月には、１年間の学習成果を分野別に発表する機会も設ける予定です。

この取り組みを地域の元気に結びつけられるよう、住民の皆さんのご協力をお願いします。

空き家対策・定住促進事業

前年度に引き続き、当町の移住希望者への空き家の案内、空き家バンクへの登録の案内・お手伝い等をしていきたいと思います。空き家の内覧・状況確認の際には、自治会長（組長）さんに事前連絡し、ご理解いただいた上で市と連携しながら案内し、移住後のフォローも地域の方のお力をお借りしながら行っていきます。また、今年も「移住者交流会」を開催する予定です。

常任委員会

三和地域協議会の活動全体を考え執行していく機関として定期的に開催し、地域の求める課題に敏速かつ的確に対応できるよう努めます。また、行政機関や公立大学、各種団体との連携を密にし、効果的で効率的な事業運営をめざします。

令和２年度設置常設部会

平成３１年度と同様とします。

地域活力部会

「みわこどもまつり」は今年度も継続して開催します。地域交流カフェ「みわふれあいカフェ」も引き続き毎週金曜日に開催します。また、三和音頭については、イベントへの出演を継続したり、子どもたちに引き続き教えたりすることで、地域への浸透を図ります。さらに、子育て講演会も開催する予定です。

〇部会とそれぞれの活動について

部会員が全ての部会活動に取り組んでいる現状では、新規部会員が入りづらいようです。そこで、部会長・副部会長を取りまとめ役として、こどもまつり・カフェ・三和音頭といった各活動に対して取り組みたい人がそれぞれ集まるような形をとっていけたらと考えています。よりたくさんの人が関われば、地域に元気が出てきます。色々な集まりを作り、あらゆる世代が集まってその時できる楽しい活動を無理なく続けてもらう、そのきっかけを作れる年になればと考えています。

○みわこどもまつり

今年は５月に開催予定です。たくさんの方にお越しいただけるイベントになっているので、長く続けていける方法を考えながら、子どもたちにとって、有意義で記憶に残るようなこどもまつりを作り上げます。

○みわふれあいカフェ

冬季休業を終え、令和２年４月から再開します。今年度も月１回はコーヒー屋さんのオリジナルコーヒーを出すほか、ふれあいカフェならではの活動を模索していきます。

○三和音頭の普及

今年度も町内イベントに参加し、依頼をいただけば踊りを教えに行くなど、三和音頭の普及に努めます。

○講演会等の開催

今年度も、冬季の予定で講演会の開催を検討中です。

○ラジオ番組での広報活動

今年度も継続して、ラジオ番組で三和地域のアピール活動を行っていく予定です。

生活基盤部会

平成３１年度に続き、「これからの地域福祉の在り方」を課題に、取り組みます。今年度は、前年度の研究・検討結果をベースに、三和地域に求められる高齢者福祉のニーズを再確認し、絞り込んだ上で、その要求に応えられる仕組みづくりを目指します。

前年度末、福知山市社会福祉協議会三和支所と民生委員が、一人暮らしの高齢者宅を訪ねて、暮らし面での困りごとに関する聞き取り調査をされました。買い物やごみ出し、交通手段などについてのアンケートです。近くに住む家族やヘルパー、近所の人らの支援で何とか日々の生活に対応されているケースが多くありました。

これらの調査結果も参考に、国が目指す「地域包括ケアシステム」の中の「生活支援」や「介護予防」に当たる高齢者の外出支援、買い物補助、大型ごみの処理、声掛け・見守り活動などについて検討を加えます。住民の側からのアプローチ可能な取り組み目標を定め、年度の後半には、それを効果的に実現するための仕組みづくりを協議、何とか着地点を見いだしたいと考えています。

だれにも訪れる老後です。しかし、「住み慣れたところで安心して暮らし続ける」ということが、少子高齢化や核家族化の進展で一層、難しくなっています。国や自治体も従前の福祉施策では対応できなくなり、地域住民の支え合いが求められます。皆さんのご協力をお願いします。

交流・連携部会

１年間の検討や準備を踏まえ、新たな体制で部会の立ち上げ、事業を実施していきたいと考えています。

当面は前年度に福知山公立大学の学生提案があった「三和フォトコンテスト」の事業化に向け、大学及び関係団体の協力をお願いして取り組みます。

地域住民活動支援事業

さまざまな地域振興事業や、三和地域の維持存続を図り暮らす人が元気で過ごせるための活動をする団体や地域を支援します。また、地域活動を始めたいという人の相談をうけたり、各種の支援制度などについてアドバイスし、住民活動の活発化を図ります。

（１）三和荘存続に向けての住民要望について

三和荘の存続に向けての活動を、「交流拠点施設『三和荘』存続住民会議」に地域住民の総意を結集して、福知山市との協議をすすめます。また、住民が三和荘を支え、持続させていくための活動についても支援していきます。

（２）地域住民組織との共同事業について

○みわ夏まつりの開催

昨年に引き続きＮＰＯ丹波・みわと「みわ夏まつり」の実行委員会事務を分担、実施します。

（３）一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社福知山地域本部三和支部事務局について

（福知山観光協会 三和支部事務局）

春・秋のハイキングや総会、理事会の開催、三和ぐるっとマップの普及活動等、引き続き行事と組織運営の責任を担います。

（４）三和地域福祉推進協議会事業について

継続して、研修会や講演会、高齢者の見守り等の活動を計画し、地域で生活する上での様々な課題に住民自らが関心を持ち、地域づくりに主体的に関わっていくための〝きっかけ〟となるよう各団体で構成する「代表者会」で協議のうえ実施します。

広報紙「みわを元気に」の発行、その他の情報発信

定期的に広報紙を発行し、地域における住民活動情報の発信と協議会活動の理解促進に努めます。

また、フェイスブックやホームページを活用し、地域協議会の活動がより「見える」ものになるよう、発信していきたいと思います。

その他の事業

その他、三和地域の存続発展と、地域住民の生活改善、福祉向上につながる事業に取り組みます。

※「みわこどもまつり」「みわ夏まつり」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は中止することになりました。

みわ ひまわり ライド　利用状況をお知らせします！

	累　計（平成29年10月 ～ 令和2年4月）
会員登録者数	126人（内訳：男性30人・女性96人）
利用者数	82人（内訳：男性19人・女性63人）
運行便数	1,899便（内訳：町内便1,845便・プラント便54便）